資 料

熊本県小川町東部の扇状地堆積物より産出した木片と ^{14}C 年代¹⁾千 田 昇²⁾Radiocarbon Age of Wood Fragments from the Deposit of Alluvial Fan at the Eastern Part of Ogawa Town, Kumamoto Prefecture¹⁾Noboru CHIDA²⁾

八代平野東縁は日奈久断層（松本・勘米良 1964）による断層崖地形を呈し、その麓部には高度・開析度などにより3段にわけられる小扇状地が発達している。これらの扇状地は日奈久断層の第四紀における活動により垂直変位をうけており（千田, 1977）、断層運動の変位速度を知るために扇状地の形成年代の把握は重要であると考えられる。

筆者は Fig. 1 に示す地点から木片を採集し、その ^{14}C 年代を測定する機会を得たので、その結果について報告する。

年代測定結果は次のとおりである。

測定値：4,500±190y.B.P.

測定番号：GaK-7,150

測定者：木越邦彦

測定試料：木片

採集年月日：1977 年 9 月 24 日

採集者：千田 昇

採集地：熊本県下益城郡小川町北部田

北緯 32°35'08" 東経 130°43'26"

2万5千分の1「松橋」図幅

試料は低位扇状地の末端部の海拔約 13m の地点で採集された。この扇状地は大部分が最大径 30cm の変成岩・チャート・砂岩などの分級のわるい亜角礫からなっているが、試料を含む部分は径 2~3cm の角礫~亜角礫およびそれらを含む青黒灰色のシルト質砂層からなっている（Fig. 2）。この部分の地形的位置は低位扇状地と 3m の比高で高位にある中位扇状地との境界部の小さな埋積谷に相当し、より細粒な物質がたまりやすかったようである。

日奈久断層の第四紀における活動は右横ずれ運動で特徴づけられている（岡田, 1971）が、扇状地群の変位か

Fig. 1 Map showing the sampling site (X)

Fig. 2 Exposure at the sampling site
M.F.: Middle Fan L.F.: Lower Fan

1) 1978 年 4 月 26 日受付

2) 岩手大学教育学部地理学教室 Department of Geography, Faculty of Education, Iwate University.

らは横ずれより縦ずれの方が卓越しているように見える。低位扇状地は、日奈久断層沿いの別の場所で、同断層により最大 3m の垂直変位を与えられていることから、等速的に変位が進行していると仮定すれば最大で 0.67mm/年の変位速度をもつ。このことから日奈久断層は B 級の活断層といえることができる。

尚、年代測定をして下さった学習院大学の木越邦彦教授ならびに測定のお機会を与えて下さった東京都立大学の

貝塚爽平教授にお礼申し上げます。

引用文献

- 千田 昇 (1977) 中部九州の基盤岩地域にみられる活断層地形. 日本第四紀学会講演要旨集, **6**, p. 25.
松本達郎・勘米良亀齡 (1964) 5 万分の 1 地質図「日奈久」および同説明書. 147p.
岡田篤正 (1971) 動いている中央構造線. 科学, **41**, p. 666—669.